

平成30年度第4回北海道子どもの未来づくり審議会 議事概要

日 時 平成31年2月28日(木) 18:00~19:45
場 所 かでる2・7 1040会議室

出席委員 松本会長 / 多田副会長 / 藤井委員 / 野村委員 / 梅田委員 / 亀井委員
/ 石川委員 / 川畠委員 / 山田委員 / 稲葉委員 / 高階委員 / 平井委員
/ 五嶋委員

事務局 花岡子ども未来推進局長 / 鈴木子ども子育て支援課長 /
森本自立支援担当課長 ほか

議 事

[審議事項]

(1) 副会長の選任について

○全員一致で、多田委員を選出。

(2) 平成30年度北海道子どもの未来づくり審議会子ども部会の審議結果報告及び知事への提言について

○野村 子ども部会長から、資料1-1~1-3に基づき説明。

○審議結果報告及び知事への提言案を提案どおり了承。

○委員の主な発言(要旨)

- ・ 女性が家事を担ったり、結婚・育児のために仕事を辞めるべきという考えの子ども委員は極めて少なかった。
- ・ 多様な価値観に触れるという提言に対し、結婚の良いエピソードを伝えるのが手立てに挙げられている。多様な価値観と結婚との関係に違和感がある。
- ・ 子育てにLINEやアプリを活用するときに、相談それ自体をLINE等で行うのではなくて、相談の入口として活用するのが良いと思う。
- ・ 育児休暇の促進、教育・医療の無償化など、中間発表では良い項目が提案されていたのに、最終の提言では抜け落ちていて、残念である。
- ・ ファシリテーターはもっと事前に学習してから、グループ討議の進行に臨むべき。
- ・ 子ども委員にいろいろ体験してもらって生の声を聴くか、従来の方法で議論して意見を聴くか、は大きな問題。
- ・ 子どもが子どもだからわかることを提言してもらうことに、提言の意味があるように思う。

(3) 第4期「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」策定の考え方(案)について

○事務局から、資料2-1~2-4に基づき説明。

○委員の主な発言（要旨）

- ・ 道の調査で2歳児母子の21%が孤立しているという結果が出たことなどを踏まえ、乳幼児親子の孤立を防ぐ視点を入れるべき。
- ・ 子育ての現場では、家族が多様化している印象。多様な家族の支援という視点も重要だ。
- ・ I R（統合型リゾート）の道内誘致が議論されているが、子どもの未来に大きな影響を与える問題である。安心して子育てできる環境を守るという観点から審議会にできることはないだろうか。
- ・ 子どもや子育て世帯の携帯電話、SNS との接し方について、依存症を防ぎ適切な利用法を学習する機会を与えるべきではないか。
- ・ ひとり親支援には、生活の総合的な支援が重要であるが、大変不足している状態。ファミリーサポートセンター、病児保育など、親が体調が悪いときの生活支援をしっかり考えていただきたい。
- ・ 「結婚」のステージを止めてはどうか。結婚は多様な価値に反する面があり、子どもが幸せになれる施策を作るのが大事である。また、婚活セミナーは効果がなく、他の対応策はないと考える。人との付き合いという観点で「地域づくり」の一環とするのが良い。
- ・ 施策の評価の仕方、目標値の設定をよく検討すべきである。子どもを増やすというよりも、幸せな子どもを増やすメッセージを与える目標を設定すべき。そして、計画ひとまとめにして道民の意識調査結果に、効果のほどを認めるのは個々の施策の貢献度が測りがたく、施策の評価として問題である。
- ・ 働き方改革、女性の活躍、労働力不足の解消、といった論点を取り上げているのは良いが、記述に統一感が欠けているように思われる。